

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271700084		
法人名	社会福祉法人 仁摩福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 しおさい		
所在地	島根県大田市仁摩町仁万843		
自己評価作成日	平成21年12月15日	評価結果市町村受理日	平成22年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1		
訪問調査日	平成22年1月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共同生活の中でご利用者皆さんがそれぞれできることをしてもらい、日々落ち着いて過ごせるように支援することで、笑顔のある生き生きした生活を目指していること

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

仁摩港に近い住宅地に位置するグループホームで、特別養護老人ホーム、デイサービス、ショートステイ等のサービスが提供されている同じ建物の中にグループホームもある。6名定員で、入所者の方は、本当の家族のように助け合ったりして、仲良く、穏やかに暮らしておられる。職員のケアも良く、新鮮な魚や野菜などを使った美味しい食事提供されていて、皆さん殆ど完食されていた。離床の為の援助に力を入れていて、6名全員の方が座って、食堂で食事をし、排泄も支援を受けながら自立ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識して職員全体で考え、地域に溶け込み地域と共に生活していくことを再認して実践につなげている	法人としての理念のもと、グループホームとしても、サービス提供の時の、具体的な12項目の基本理念を作って、掲示してある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの保育園児との交流を図り、地域や、小学校の行事などへ利用者さんと一緒に参加している	近くのスーパーへの買い物や地域の行事に参加するなど交流している。また定期的にボランティアの受け入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での認知症に関係する講演など啓発の場へ参加するようにしており、事業所見学の地域の方の心配や不安なことに耳を傾け相談にのったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価報告や、取り組み状況などを行い、意見などをサービスの向上に生かせるように努力している	2ヶ月に1回開催されており、活発に意見も出ている。議事録も内容が分かりやすくまとめられている。	出席者が固定化しているもので、テーマごとに、多方面に声がけし、色々な意見を引き出し、運営に活かしていただきたいと思っています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に市町村担当者に取り組みなどなどを伝え、認定調査時など支援センターの職員に意見をきくなどして、連携をとっている	毎回運営推進会議への出席もある。その他のいろいろな場面で意見を聞くなどしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で委員会を作り、身体拘束をしないような取り組みに気をつけているが、一人業務時に利用者様の状況にお応じ、対応しきれない時は止むおえず施錠することはある	やむをえず、施錠する事もあるが、それが常態とならないように注意している。	法人の理念やグループホームの基本理念をこういう機会にみんなで話し合われると良いと思います。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については常日頃より意識してケアにあたっており、高齢者虐待防止法の遵守に向けて取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を利用されている方がおり、権利擁護や、成年後見人制度についての理解を深めるため、会議などへ参加できるよう働きかけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時等、利用者や家族の不安などに適切なアドバイスができるように納得を得られるように対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、家族交流会などで管理者や、職員と直接話せる機会を持っており、他にも意見や苦情を言えるような窓口を設け、ケアや運営に反映させるようにしている	家族からの意見は、運営推進会議や家族交流会などで、良く出ている。ケアについては満足の意見が多い。	職員の異動、離職等気になさっている方も多いようなので運営に反映させていきたい
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、全体ミーティングで意見など聞くようにはしているがいろいろもあり、きちんと把握し、反映されているとはいえない	職員は常にこの状態で良いかどうか不安を抱えている。特に人員配置の問題について不安のようである。管理職に現場職員の意見や提案が反映させる仕組みづくりが急務である。	他のグループホームと相互研修などを行い、色々なケースを学び、運営の効率的な方法等を、広い視野で話し合われるのも良いかもしれません。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営状況を説明したうえで職員への経営に関する意識付けを図っているし、給与水準などの見直しに努め、実践に向けて改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	受けた研修に対して職員全体会議で報告するような機会を作り、勉強し知識を共有できるようにしている。また自発的な自己啓発の研修などを奨励している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時の職場実践の受け入れなどを行っておりサービスの質の向上を図れるような意見交換をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安なことや、思いを理解するように努め安心して生活できるような関係作りをする		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることや不安に対する意向の理解に努め、職員で共有するようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人やご家族の思い状況を確認し、改善が図れるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることの参加を働き掛け、お互いが和やかに生活できるような関係作りをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年3回の家族交流会を開催してお互いの家族や職員と関り合える場作りを行い、本人を支援するための情報交換を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らすなじみの知人や本人の生家などに出かける機会を作り、つながりを継続できるような支援をしている	地域に出かけ馴染みの人に会ったり、自宅に出かける等支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、会話が弾みみんなが楽しく過ごせるように、時には仲介役になり、コミュニケーションを図るようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了された方のところへ利用者と一緒に出かけことや、逆にご家族が会話をしに来られてその後の様子などをうかがい相談ごとなどを傾聴している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で本人の意向の変化に対して言葉や表情などから職員同士で話し合いを持ち本位にどうよりよく添えるかを確認するようにしている	言葉での聞き取りが困難な利用者の方もおられるが、職員が寄り添って良く一人ひとりの思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	周囲の情報が少ない時は、本人や家族から継続的に引き出すような会話や機会を作っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを理解し、日々の言動など本人の状況や状態を確認し、職員で情報を共有してケアにつなげている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日ごろのかかわりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。日々の話し合いや、月一回のミーティングの中で職員の意見交換やカンファレンス等をしている。	定期的な見直しは3ヶ月に1回だが、毎月のモニタリングで職員間で話し合い、介護計画に反映されている。変化があれば、それに応じた見直しも随時行なわれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や気づきを記録に落とし、申し送りノートを利用して、職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況に応じ、通院などに必要な支援に対し、臨機応変に対応して個々の不安の解消を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーへ出かけたり民生委員が協力される地域の催し物など把握して出かけるようにしており、ご利用者が会話を楽しむ機会を作っている。また、郵便物を出しに出かけたり、美容サービスも利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後の主治医の変更は勧めておらず家族の希望するかかりつけ医へ受診している。必要に応じて受診の付き添いや、ご家族とも同行しており、普段の変化や様子を伝えるようにしている	かかりつけ医については今までの主治医へ受診の支援がなされている。ご家族による受診が原則であるが、必要な場合には職員が付き添う場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情の変化等に注意を払い、早期発見に取り組んでいる。変化に気づいたときは、施設の看護師に相談し、かかりつけ医につなげることもある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供しており、関係づくりを行っている。回復状況などを医療関係者や、家族に確認しながら情報交換しており、退院後の支援につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方など本人家族と話す機会を持ち事業所でできることなどを説明しながら職員全体でも方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針としては、事業所としてできることを説明している。	考え方としてはあるが、文書として確立はされていない。方針を1本化し、利用者、家族に説明し、その上で内部の体制を整えて頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時の緊急時対応などマニュアルを整備して周知を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近くの自治会に日頃より、緊急時の協力をお願いしてもらってはいる。いざという時にあわてずに避難誘導できるように心掛けるように職員間で話している。	同一施設内の特別養護老人ホームと一緒に年2回避難訓練している。備蓄についても特養と共有で用意がある。地域の自治会には緊急時の協力要請中。	緊急時においては、近隣の方の手助けが重要です。運営推進会議等を「利用しながら、早期の協力体制の確立を望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを考えさりげない言葉かけや対応を心掛けている。また本人に自己決定してもらうような声掛けをするようにしている	プライバシーを損なうような言葉掛けも無く、さりげなく対応されている。書類についても書庫管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が答えやすく選びやすい問いかけをして自分で決めるような場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や気持ちに配慮しながら支援している。利用者様主体で入浴なども行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や、外出時の身だしなみには、配慮しており、鏡を見ながら一緒に考えるように心掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様それぞれの能力に応じてできることをしていただき、職員と一緒にしている。作りながら食材のことなど話題が膨らむ。	それぞれの利用者が出来ることを手伝われておられる。港が近いせいもあり、魚が好きということで、食卓には魚料理が用意される。大変おいしい食事が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量を把握している。本人の嗜好を聞き取りながら、野菜中心で蛋白源もきちんと取り、栄養が偏らないようにバランスの良い献立を考えながら作っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は声がけ見守りをし、できない方には毎食後のケアを行い、口腔内チェックをして肺炎予防などへ努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの方はいない。排泄時は自尊心に配慮してトイレ内での排泄を大切にしながら紙パンツやパットなど本人に合わせて検討している。変更する際は家族に相談の上行っている	リハビリパンツの方については、トイレ誘導をされていた。排泄チェック表もあり、自立への支援がされていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々水分補給量は把握しており、少ない方に、ゼリーなど目先を変えて提供して摂取を促している。繊維質の食事に心掛け、職員は、身体を動かすことの大切さを常に意識して支援に結びつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯などは決めていないが、一人ひとりの気持ちを確認したうえでタイミングなどを考えて入浴を楽しんでもらうようにしている。	曜日や時間を決めず、利用者の希望や気持ちを優先して、入浴の支援をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のペースで午睡したり、心地よく眠れるように日中の活動性に配慮はしている。早く休まれる人は休まれるし個々に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルや処方箋のコピーを個々でわかるように整理している。職員は内容の把握ができるようになっており、服薬の確認をきちんとしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえ、今まで行ってこられた干し柿作りや、干し大根などをつくってもらい、利用者さんの経験や知恵をお聞きすることで感謝の言葉を伝え、出来上がりを楽しみにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々、利用者さんの体調や、希望などを確認考慮しながら、臨機応変に対応して外出できるよう支援している。	買い物、散歩などの支援が行なわれている、外出を良くさせていただいていると、家族の方も喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が安心されるようであり、家族に相談したうえで、ご自分が小銭程度を持っておられる方や、ご家族の意向で、お金を預かり、必要時に本人に払ってもらうような対応を支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望される際は電話をかけてもらい、ご家族よりの電話を取り次ぎ会話をしていただいている。また暑中見舞いや年賀状は欠かさずご家族やお世話になった方などに出せるような支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんが作られた作品を壁など目につく位置へ展示し、季節の花などを飾り、匂いや視覚で達成感や、季節感を感じていただくようにしている。体調に合せ、移動しやすい環境に家具などの配置を変え、整えることもある	季節感のある作品や花などが飾られている。またソファがいろいろな場所に置いてあり、くつろげる空間作りがされている。調光も明るく暖かい雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファや椅子を置き、気軽に腰掛けられるようにしている。また和室ではこたつなどを置いてテレビを見たり心行くまで会話したり一人でくつろげるような環境を作り支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分が愛用していたものや、若いころに作られた作品などやご家族と相談のもと、専用テレビを持ってきていただいている方もあり、ご本人が居心地良く過ごせるように支援している	利用者ご自身が使われていた家具や、利用者自身作品など飾られており、居心地良くきれいに整えてあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が混乱しないように場所が分かるような工夫をしている。また利用者様の身体状況に応じ、手すりやテーブル等を利用して、移動し易くなるようにしたり、危険を回避させ安全な環境づくりへの配慮をしている		